

一般社団法人日本環境化学会
第 27 回環境化学討論会共催イベント

「環境化学を加速する質量分析インフォマティクス」

共 催： 質量分析インフォマティクス研究会
(基盤団体：日本バイオインフォマティクス学会 (JSBi) <http://ms-bio.info/>)

日 時： 平成 30 年 5 月 25 日 (金) 9:00~12:00

場 所： 沖縄県市町村自治会館 4F 第 6 議室
〒900-0029 沖縄県那覇市旭町 116-37
http://okinawa-jichikaikan.com/?page_id=136

参加費： 無料

世の中に流通している化学物質の種類は数万とも数十万とも言われていますが、実際に環境中にどのような物質がどれくらい放出されているのか、また、それらが生態系や私たちの健康にどのような影響を及ぼしているのかは、全く分かっていないと言っても過言ではありません。このように多様化する化学物質への対応は急務であり、環境化学分野への期待も高まっていると言えます。

昨今の分析技術や情報技術の発展は目覚ましいものがあります。それらが生産あるいは取り扱う情報量は格段に増えつつあり、質量分析でもインフォマティクスは重要な分野として注目されています。この度、質量分析インフォマティクス研究会の協力で環境化学と質量分析インフォマティクスの交流の機会を設けることができました。環境化学と質量分析インフォマティクスの最新の研究紹介とディスカッションによって、両者の連携による環境化学の発展性を様々な角度から検討することをテーマにワークショップを開催いたします。このような異分野交流は、ヒューマンネットワークの形成、新しいアイデアの創出や分野連携による共同研究への展開等につながる貴重な場になるものと期待されます。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

討論会参加者：

自由にご参加いただけます。

参加申し込み方法：

■ 討論会と共催イベントの両方に参加される方：

討論会参加申し込み時に当該共催イベントの「参加する」にチェックをしたうえで、質量分析インフォマティクス研究会が開設する HP にて参加申し込みをしてください。

■ 共催イベント参加登録 URL：

<http://ms-bio.info/work2018jec.html>

プログラム (予定)

■ 口頭発表：(講演者と演題は変更になる場合があります)

「質量分析データベースの世界 (仮)」

奥田 修二郎 (新潟大学)

「Mass++ ver. 4: オープンソース質量分析データビューア開発の現状と今後の展望 (仮)」

田中 聡 (Trans-IT)

「CASMI2016 から学ぶ環境化学物質の同定戦略」

津川 裕司 (理研 CSRS・IMS)

「GCxGC-ToFMS によるノンターゲット環境モニタリングの試みと課題 (仮)」

橋本 俊次 (国立環境研究所)

「ケモインフォマティクスとネットワークが魅せる未知化合物の世界 (仮)」

早川 英介 (沖縄科学技術大学院大学)

「LC/QTOF hybrid MS で環境試料ノンターゲット一括分析」

山本 敦史 (鳥取環境大学)

「構造推定の精度向上を目指した化合物データセットの選択(仮)」

山本 博之 (ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社 研究本部)

「環境化学にプロテオミクスは寄与できるか? (仮)」

吉沢 明康 (京都大学)

(50音順)

■ パネルディスカッション：有志パネラーと会場参加者による自由討論